通常総会・講演大会報告

通常総会・講演大会記事

昭和56年4月2日第66回通常総会，名誉会員推挙式，表彰式，特別講演会が，また4月2日，3日，4日の3日間第101回講演大会が開催された．

第66回通常総会　第66回通常総会は武田会長が都合で欠席のため，井上会長代理（本会副会長）が議長となり，三井本会常務理事司会のもと，東京大学工学部2号館大講義室で開催された．冒頭に井上会長代理の挨拶が行われた．

日本鉄鋼協会第66回通常総会ならびに第101回講演大会を開催するに当たり，一言ご挨拶申し上げます．

皆様も御承知のとおり80年代を迎え，わが国の産業界は種々の困難に直面するに至つております．中でも引続く原油価格の上昇とこれに伴う電力価格の高騰や，自動車に代表される輸出環境の悪化等は直接鉄鋼業界を脅かし，鋼材自身の輸出減少に加え各社ともかなりの減産を余儀なくされております．

この中にあつてわれわれは，過去におけるオイルショック時に，技術力をもつてその被害を最少限に押さえた実績をもつております．

この経験を生かし，生産の合理化，エネルギの節約等に邁進し，新しい技術を生み出す必要があります．

私はこの点において当協会の責任の重大さを痛感すると共に，1980年代を自主技術開発の時代にいたしたく存じます．

当協会はこのような見地に立つて，鉄鋼に関する研究者，技術者のいわゆる頭脳資源の活用を目指し，従来から共同研究会，鉄鋼基礎共同研究会等あらゆる事業を通じて，技術力および技術人材の資質向上に努めて参りました．また，鉄鋼技術情報センターの設置もこの目的達成のために設置したものであります．

一方，春秋の講演大会，技術講座あるいは各種セミナーも会員各位即ち研究者技術者の生涯教育，または会員相互の研鑽の場であり，当協会の主眼とするところであります．

講演大会は毎年2回開催しておりまして昨年秋には第100回の記念大会を実施いたしました．発表された論文数は毎回増加の傾向にあり第100回大会においては750件を記録するに至り，当協会は講演大会を通じ鉄鋼業および鉄鋼技術の発展に大きな役割を果して参りました．幸いにして今第101回講演大会も発表論文数は674件を数え，当協会の来るべく新時代にふさわしい論文が発表されることになつておりまして誠にご同慶の至りに存じます．

このほか当協会では国際技術交流にも力を注いでおりまして昨年度は，「第1回国際鉄鋼圧延会議」を開催し，高い評価を受けました．本年度は「材料集合組織国際会議」をはじめ「日本—ソ連」「日本—中国」等2国間シンポジウムおよび「薄鋼板成形に関する国際シンポジウム」を計画いたしております．

また，ISO・TC 17幹事国業務は事務局開設以来各国から高い信頼と評価を受け，この実績のもとにSCI（化学分析）の幹事国も引受けることになりました．会員および関係各位のご支援ご協力をお願いします．

本日は，この総会の直後に当協会前会長荒木透博士とアメリカ鉄鋼協会会長ウィリアム・ジェイ・ドゥ・ランシー殿を，当協会名誉会員にご推挙申し上げることになつております．ここにお2人のご業績に対し深く敬意を表する次第であります．

さらに渡辺義介賞，西山賞をはじめ当協会各賞の表彰式が行われますが，受賞者の皆様方のご業績に敬意を表し，お祝い申し上げますと共に，今後も一層のご研鑽ご活躍を願うものであります．

以上挨拶の後，総会の議事に入つた．付議された案件は次のとおりである．

議案第1号　昭和55年度事業報告，収支決算ならびに財産目録の件
議案第2号　昭和56年度事業計画ならびに収支予算の件
議案第3号　理事，監事ならびに評議員選挙の件
議案第4号　定款中一部変更の件

初めに議事進行上，議案第3号理事，監事ならびに評議員選挙から始められた．選挙管理委員に徳田昌則君，吉松史朗君を選び投票が行われ別室において開票に入つた．続いて議案第1号ならびに第2号が関連しているので一括議題として事業と会計に分けられた．

昭和55年度事業ならびに昭和56年度事業計画について白松理事より次の報告がなされた．

「昭和55年度事業を報告をし，併せて昭和56年度の事業計画をご説明申し上げます．

まず，本会の主要事業であります講演大会は，昨年秋第100回目を迎え，九州で盛大に開催致しました．講演発表数も年々増加し，春秋あわせて1300件におよびました．和文会誌「鉄と鋼」の研究論文の投稿数も活発であり，本年1月号からは会員諸兄の意向を反映させ，報告，解説記事等を掲載し，内容の充実をはかりました．また，欧文会誌「トランズアクションズ ISIJ」も春秋講演概要を収録し，早い時期に掲載するなど，一層の充実を図り，内外からの高い評価を受けております．

また，昭和54年度より改編出版をいたしております「鉄鋼便覧」は全6巻7分冊のうち，第2冊目「圧延基礎・鋼板」，第3冊目「条鋼・鋼管・圧延共通設備」を刊行いたしました．昭和56年度には「基礎」ならびに「鉄鋼材料，分析・試験」の2冊を刊行する予定にしております．

また，西山記念技術講座は，東京，岡山，富山，大阪の各地で八回開催され鉄鋼工学セミナーも127名の受講者を迎えるなど，本会の教育活動も，充実した年でございまして，本年度も引続き8回の技術講座及びセミナー

を開催する予定になつております.

次に企業の技術研究の交流の場であります共同研究会は, 18 部会 23 分科会の機構により, 鉄鋼製造技術全般に関し, 現場的立場から調査研究, 情報の交流を行つております. 現在, 重要視されております省資源, 省エネルギ技術, 環境保全技術などについても, 各部会, 分科会の立場から検討され, 数多くの成果が報告書として発表され, 本会の研究活動の柱となつております.

次に基礎研究でありますが, 日本金属学会, 日本学術振興会と本会との3者による鉄鋼基礎共同研究会も着実な歩みを示しており, 昭和 55 年度より, 新たに「融体精錬反応部会」と「連続鋳造における力学的挙動部会」の2部会が発足し, 現在6部会が活発な研究活動を行つています.

また, 本会独自の重要基礎研究を推進させる特定基礎共同研究会では,「原料炭の基礎物性とコークス化特性に関する研究」および「スラグの有効利用に関する基礎研究」をテーマに2部会が組織的な研究を続けております. そして昭和 56 年度には仮題「鋼材の表面物性に関する基礎研究」部会を発足させるべく準備中であります.

次に標準化委員会については, 鉄鋼関連JIS 原案の作成, 協会規格案の作成, 鋼材特性に関する各種データの収集とデータシートの作成, 50 余に及ぶ ISO 原案の審議, 国際共同実験の実施, および ISO 国際会議への代表者派遣など幅広い標準化活動を行つております.

また, 鉄鋼標準試料は, 化学分析用, 機器分析用等合せて 335 種にのぼる標準試料を製造, 分譲しており国内外の鉄鋼分析技術の向上に役立つております. この3月には世界に例をみない「介在物標準試料」を完成, また高純度鉄標準試料も近々分譲できる予定でございます.

その他クリープ委員会を改組した高温強度研究委員会, 高級ラインパイプ共同研究委員会, 試験高炉委員会, 材料研究委員会, 鉄鋼科学史委員会, 国際鉄鋼技術委員会, 日本圧力器研究会議等においても, それぞれ活発な活動を展開しております.

次に情報活動におきましては, 当協会所属の鉄鋼技術情報センターは, 特殊法人日本科学技術情報センターからの委託業務として, その運営する機械検索システムに対し, 金属関係文献の抄録およびコンピュータへの入力加工作業と, 端末機によるこのシステムの利用と普及に努めています. また, 共同研究会資料のマイクロフィシュ化, 図書特にプロシーディングス関係, 数値データ集関係の収集整理, 鉄鋼会社の情報員の質的向上, 二次情報誌の刊行等により, 技術研究開発活動に対するバックアップ体制を充実しつつありまして当センターの機能の利用者も着実に増加しつつあります.

次に昭和 54 年度に設立されました ISO(国際標準化機構) TC 17 事務局は, 国際的に中立, 公正の保持を旨とした業務運営を精力的に行つており, 各国から信頼を受けております. 昭和 56 年度は, 過去の実務経験を反映させ, TC 17 に内在する問題を把握し, その対策を講じながら, 昭和 57 年度開催予定の TC 17 第 14 回総会の準備を進めてまいります.

また, 昨年度には TC 17 のサブ・コミッティ(1)化学分析の幹事国に選ばれ, この幹事国業務を遂行するため, 新たに ISO TC 17 SC 1 事務局を発足させました. 事務局設立に当たり, 御理解と御協力を頂きました鉄鋼各社に対し, 深甚の謝意を表するものであります.

次に国際交流につきましては, 昨年度は4月に中国金属学会代表団を招聘し, 9 月に国際鉄鋼圧延会議を催し, 11 月には日独セミナーを開催, それぞれ多大の成果を収めました. また海外で開催された日本・ベネズエラシンポジウム, 日本・オーストラリアシンポジウムに代表団を派遣いたしました他, 東南アジア鉄鋼協会会議に協力いたしました.

56 年度は, 5月に薄板成形シンポジウム, 6月に日ソシンポジウム, 9月に材料集合組織国際会議, 11 月に日本・チェコシンポジウムを東京で開催する予定でございます.

また, 5月に日本・スウェーデンシンポジウム, 9月に日中鉄鋼学術会議に, それぞれ代表団を派遣する予定であります.」

引き続き矢野理事より昭和 55 年度収支決算ならびに昭和 56 年度収支予算について報告された.

決　算

(一般会計)

決算の結果, 収入は7億5925 万 1613円となりました. 本年度は会費収入, 文部省補助金, 広告収入および情報事業収入等の増収がありましたので収入予算に対し 470 万 6227 円の増収になりました. 一方, 支出の部におきましての決算の結果は, 7億 3394 万 9383円でありまして, 支出予算に対し 2059 万 6003 円の節約となりました. したがいまして当期剰余金 2530 万 2230 円をもつて昭和 55 年度を終了することができました.

(剰余金処分)

剰余金の処分は, その全額即ち 2530 万 2230 円を年次度へ繰り越しし, 昭和 56 年度財政を充実いたしたくここに提案いたします.

(財産目録)

決算の結果, 昭和 55 年度末現在の一般会計保有の純財産は, 2億 348 万 1359 円でございます.

(別途資金会計)

別途資金会計は表彰ならびに事業資金, 渡辺義介記念資金ほか 12 の会計を有しており, それぞれの目的に応じ, 特別資金運営委員会, 理事会の議を経て支出し, または蓄積されております.

(補助金事業等会計)

補助金事業会計につきましては, 11 の特別会計を有し, 政府の補助金, 委託金あるいは他団体の分担金等により運営しておりまして, いずれも充実した事業を行つております.

予　算

昭和 56 年度収支予算につきご説明申し上げます.

(一般会計)

一般会計の収入の部では, 前期繰越金を含め総額8億 879 万 5230 円を計上いたしました. 本年度も鉄鋼標準試料, 広告収入, 参加出席費等は, 高い努力目標を掲げましたほか, 維持会員につきましても会費の値上げを

お願いすることといたしました．各位の一層のご理解をお願い申し上げる次第でございます．

次に支出の部では昭和56年度の予算編成方針は「事業規模を前年並み」とし，引続き大変厳しい方針といたしました．その中で特にご説明申し上げますのは，会誌の発行と図書の出版事業であります．会誌は昨今の投稿論文数増加に伴い講演概要集を各二分冊といたし，また全面改訂の「鉄鋼便覧全六巻」の出版につきましては，その内の第1巻と第4巻を予算化いたしました．

さらに，鉄鋼技術情報センター事業を充実するほかは，おおねむ継続事業でございまして，内容の充実に重点をおき，極力節約を計り，予備費を含め8億879万5230円を計上いたしました．幸いにして前期繰越金が当初の予想を上回つてまいりましたので予備費を1201万2230円とし，諸物価値上げ等のほか不測の出費に備える体制をとることができました．

(別途資金会計)

別途資金会計の予算は例年通り特別資金運営委員会および理事会の議を経て事業計画をもとに編成いたしました．

(補助金事業等会計)

補助金事業等会計の収支予算は大方継続事業でございますが，白松理事からのご説明にありましたように本年度からISO·TC 17·SC 1(化学分析)の幹事国業務会計が含まれるようになりました．

以上議案説明の後，安藤監事より監査の結果報告がなされ，満場一致をもつて議案第1，2号が承認された．

引き続いて議案第4号，定款中一部変更「定款第19条理事，監事および評議員についての規程中「副会長2名」とあるのを「副会長2名以上，3名以内」に変更することが提案され，原案通り承認可決された．引続き先に行われた選挙の開票が終わり選挙管理委員より候補者はいずれも絶対多数で当選された旨報告された．ここで新任副会長2名，専務理事1名を互選するため臨時理事会が開催され，新任副会長に小島　浩氏，田畑新太郎氏が，専務理事に木下　享氏が当選された旨議長より報告がなされた．続いて昭和37年11月より本会事業拡大強化推進の責任者として専務理事就任以来18年余に亘り，尽力をつくされた田畑新太郎氏に対し井上会長代理より会員を代表し謝意が表され通常総会が終了した．

名誉会員推挙式　新名誉会員に次の2氏が推挙された．荒木　透氏　本会前会長，金属材料技術研究部部長 Mr. William J. De Lancey　アメリカ鉄鋼協会会長，Republic Steel Corp. 会長

記念資金贈呈式　続いて日本鋼管(株)が昭和57年6月に創立70周年を迎えることになり，本会に4000万円の基金が高野副社長より贈呈された．

表彰式　続いて表彰式に移り，下記のとおり各賞の授与が行われた．

渡辺義介賞　高野　廣
西山賞　大竹　正
服部賞　有村　康男　小島　浩
香村賞　瀬川　清　山村　隆将
渡辺三郎賞　岸田　壽夫　久保　慶正
俵論文賞　杉山　喬　佐藤　裕二　中村　正和
原　行明　磯部　光利　鈴木　吉哉
館　充　北川　英夫　拝田　治
江見　俊彦　河西　悟郎　内藤　雅夫
森脇　三郎　大内　千秋　大北　智良
市原　卓三　上野　康　辻川　茂男
玉置　克臣　久松　敬弘
渡辺義介記念賞
朝位　義照　岩崎有一郎　岩崎　重雄
小野田克己　尾山　一郎　川端　清
北西　碩　清水　勇夫　杉本　正勝
谷　幸男　中川　一　平田　宏
林　清造　星野　和行　森　禮次郎
西山記念賞　一瀬　英爾　及川　洪　大須賀立美
尾澤　正也　笠松　祐　川上　公成
熊田　有宏　嶋中　浩　高橋　政司
西　武史　藤浦　正己　古川　敬
宮川　大海　渡辺　一雄　鰐部　吉基

特別講演会　表彰式に続き次のテーマで特別講演会が行われた．

1. アメリカ鉄鋼協会長 Mr. William J. De Lancey
2. 「日本鉄鋼業の生産性(特に省力化について)」渡辺義介賞受賞　高野　廣氏
3. 「鉄鋼材料の研究における進歩発展」西山賞受賞　大竹　正氏

講演大会

講演大会は4月2日，3日，4日の3日間東京大学工学部で15会場に分かれて行われた．

講演大会　講演件数は製銑関係107題，製鋼関係159題，加工関係115題，性質関係227題，分析関係16題，計624題が15会場にわかれ，講演ならびにその討議が活発に行われた．

討論会　一般講演の他，次の5テーマ27題の講演による討論が活発に行われた．

1. 高炉における事前処理鉱の役割　座長　大森　康男　副座長　佐々木　稔
2. スラブ連鋳の省エネルギ　座長　田桐　浩一
3. 熱間圧延変形抵抗の数式モデル　座長　中川吉左衛門
4. 鉄鋼の表面処理に関する最近の動向　座長　小川喜代一
5. 高Mn系非磁性鋼の特性と問題点　座長　井上　正文

ポスターセッション　4月3日，4日の2日間第16会場において開催された．件数は製銑6題，製鋼5題，加工3題，性質9題であつた．

懇親会　懇談会　懇談会は4月2日午後6時より神田学士会館で日本金属学会と共催で開催された．田中良平東工大教授司会のもと，両会会長の挨拶に始まり，各地から参集した会員諸氏の間で歓談がくりひろげられた．

ジュニアパーティー　4月3日午後6時より東京大学第2食堂で開催され，若手技術者，研究者を中心に，自由に懇談がなされ親交を深めた．